

あすの一流

三木の若き仕事人



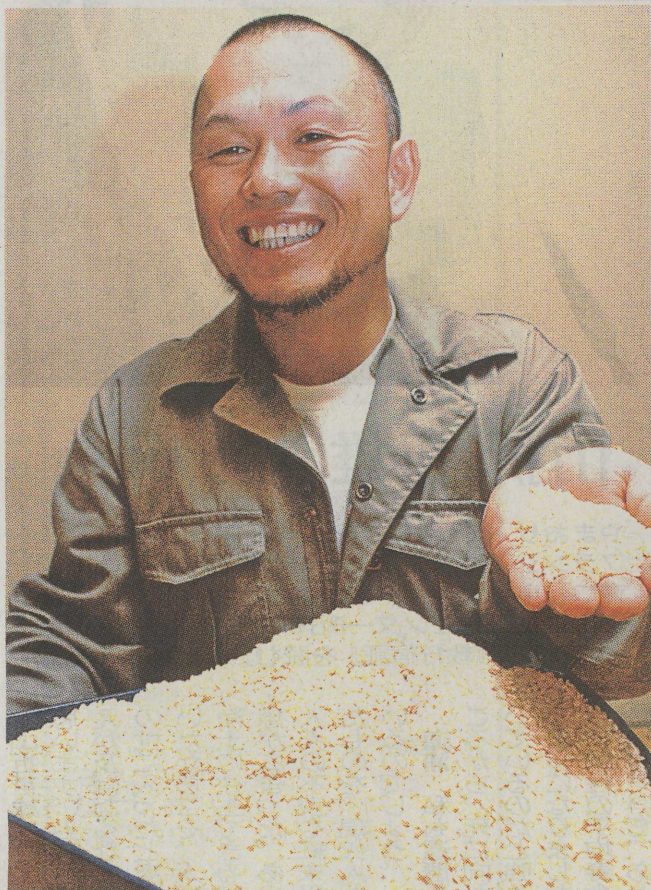
数年前まで農業に興味はなかった。もともとは、昨年4月に、父が創業した建設会社の社長になる予定だった。

経営を弟に譲り、2009年から専業農家になった三木市吉川町福吉の永塩有さん(37)は「妻に『社長夫人になるのを待っていたのに』と冗談を言われましたわ」と豪快に笑う。

意識が変わったきっかけは、04年7月に三木青年会議所に入ったことだった。当時は建設会社取締役。他業種の仲間と話すうちに、「何のために仕事をするのか」と考えるようになったという。

永塩さんが出した答えは「地域貢献が最大の目的。そのために自分は地域の農村環境を守ら

② 山田錦生産農家 永塩 有さん(37)



山田錦を栽培して4年を迎えた永塩有さん。「ええもんを作って三木で1番になりたい」=三木市吉川町金会

なあかん」。たまに父を手伝う程度だった農業への考え方が、一新した。07年からは酒米の山田錦の生

夢は農業経営の法人化

産を開始。トマトなどの栽培作物と比べると面積当たりの収入は少ないが、「吉川の大きなブランド。これはやらなあかん」と地域先の輩にも指導を仰いだ。

背の高い山田錦は栽培がほかの品種より難しく、最初は肥料をやり過ぎて稲が倒れてしまいい、米の等級もよくなかった。天気や気温、湿度も予想して造メーカーと直接取引を始める仕事を進めなければならず、土

作りや病気の管理などすべてが整わないといい米が実らない。「相手は生き物。さぼったら全部結果に表れる」と永塩さん。田植えを終えると収穫までほぼ毎日、田んぼで葉の色など生育状況を確かめる。

2009年1月に父が体調を崩したこともあり、専念することを決意。10年からは新潟の酒造メーカーと直接取引を始める。近年はトマトにも力を入れており、将来的には「ながしお農場」の法人化も視野に入れる。

まく作れたというだけで満足したらあかん。数字が上がってこなあかん」というのが信念だ。直接新潟で杜氏に会い、生産農家への要望も聞くことにしている。吉川町は山田錦産地の特A地区とされるが、ブランドだけに頼らず、さらに試行錯誤を重ねる構えだ。

山田錦 “酒米の王者”とも呼ばれる酒造好適米の代表格。三木市農業振興課によると、2010年の市内の作付面積約1100㌔、収穫量約5000トンは全国一。粘土質の土地と、昼夜の寒暖の差などが生産に適している。

「農業の職人であるだけでなく、経営者でありたい。若い人が就職活動のときに、一つの選択肢に入るような業界にしたい」。日焼けした顔をぐっと引き締めた。(斎藤正志)

(35) Ⅱ末広Ⅱは「家族の1の出前講座。講師は、健康と商売繁盛を祈つ 県医師会認定の健康スゴ 4・89・23331 は、同センター8079

御供粗 三木

(診療は前9:正午、後1:5)
3日 志染町東自由が丘2、黒田東自由が丘診療所(内、小児科) 80794・85・6213▽志染町西自由が丘1、古家皮膚科医院(皮膚科) 80794・84・1731▽吉川町稲田、吉川病院(外科) 80794・72・0063
※変更される場合があります。電話でご確認ください。

交通取り締まり

【3日】神戸Ⅱ県道神戸明石線Ⅱ神戸市道中央幹線Ⅱ阪神・丹波Ⅱ国道43号Ⅱ国道176号Ⅱ東播Ⅱ国道2号Ⅱ国道175号Ⅱ西播Ⅱ国道250号Ⅱ県道和田今宿線Ⅱ但馬Ⅱ県道豊岡竹野線Ⅱ国道9号Ⅱ淡路Ⅱ県道洲本灘賀集線Ⅱ国道28号Ⅱ高速道路Ⅱ神戸淡路鳴門自動車道Ⅱ姫路バイパス(午前/午後、急な変更・中止があります)

わが家のアイドル



(1歳)

太田 来夢ちゃん

1歳おめでとうーじーしーばーより(三木市大塚)